

会 議 録

1 会議名	第5次南砺市子ども読書活動推進計画第1回策定委員会
2 議題	1 第5次南砺市子ども読書活動推進計画について (1) 計画策定の目的 (2) 第4次推進計画における成果と課題 (3) 第5次計画の体系説明 2 今後のスケジュールについて
3 開催日時	令和6年8月5日(月) 午前10時00分から午前11時18分
4 開催場所	南砺市役所 別館3階大ホール
5 出席者	第5次南砺市子ども読書活動推進計画策定委員 出席9名/全10名 委 員：武田和一(委員長)、高田公美、野村由佳里、中段久美子、唐嶋田鶴子、橋爪央樹(副委員長)、堀田蘭湖、藤井美穂、岩倉安世 事務局：教育長、教育部次長、生涯学習スポーツ課長、中央図書館長、中央図書館館長補佐、福野図書館副主幹、中央図書館司書
6 欠席者	溝口恵美子、教育部長
7 傍聴者	無し
8 議事内容	・委嘱書交付 ・開会のあいさつ 教育長 本市の第4次の策定から2年しか経過していないが、その間に国と県の第5次計画が策定されたことと、本市も図書館デジタル化推進事業による体制が大きく変化したことによる策定となる。日本の学力は、世界でトップクラスを誇るが、読書量は極めて少ない状況である。読書をして特徴ある資質を深め、感情を豊かにすることで立派な子どもたちに育つのではないかと思う。 すべての子どもたちにサービスが行き渡る計画を策定するため、みなさまの意見を計画に反映させていきたい。 ・委員自己紹介 ・委員長・副委員長の選出について ・委員長あいさつ 2年前に第4次を策定したが、今回は第5次を策定する。昨年度、図書館デジタル化推進事業で図書館が大きく変革した。建物が古くても、中身が充実していれば良いと思う。子どもの読書へのつながりの中で第5次計画の策定がよりよい施策となるようにしていきたい。 ・協議事項(進行 武田委員長) 第5次南砺市子ども読書活動推進計画について (1) 計画策定の目的 事務局：(資料2に沿って説明) 「第4次計画」の計画期間は令和8年3月で終了する予定だが、

国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」及び県の「第五次富山県子ども読書活動推進計画」の策定に加え、市立図書館デジタル化推進事業等に取り組み、令和6年度から図書館の体制が大きく変わったことから修正が必要になったため、第5次計画を策定する。

(2) 第4次推進計画における成果と課題

事務局：成果と課題、資料2に沿って説明

計画期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とする。

基本方針について、基本は第4次の基本方針を引き継ぎ、内容の中で、国や県の基本方針を盛り込んで策定したいと考えている。

(3) 第5次計画の体系説明

事務局：第5次の計画体系案は第4次計画から基本方針を大きく変更していない。第5次計画体系案で、国・県の基本方針を引き継いだ箇所は青字、南砺市の体制が変化し新しく追加した箇所を赤字で記した。詳細は、別紙の資料による。

今後について、計画体系案等及び本日の会議のご意見等を基に、第5次計画案作成し、第2回の策定委員会ではほぼ完成形の計画をお示ししたい。

・今後のスケジュールについて

事務局：(資料2に沿って説明)

本日、第1回の策定委員会を開催し、第5次計画の計画体系等説明した。いただいたご意見等は、10月に開催予定の第2回策定委員会に提出する計画案に反映し、更にご意見をいただいて修正を行い、11月の教育委員会で承認、11月の議会全員協議会で計画案を説明する。令和7年1月開催予定第3回策定委員会で最終の協議をし、2月にパブリックコメントを実施、3月に教育委員会で計画案の承認、3月議会全員協議会で計画の説明と報告、3月に第5次南砺市子ども読書活動推進計画を公表する。

●質疑応答・提案事項

委員：第5次計画で新たに追加された「多様な」は、具体的にどのような子どもたちを指すのか。

事務局：障がいをもつ子や外国籍の子どもたちを示している。

委員：多様な子どもたちは、乳幼児期～高校生期のそれぞれの中に含まれるのではないか。あえて別に設けたのはなぜか。

事務局：国と県の方針に倣って、別に設けた。

委員：「なんと！バースデーブック事業」で読書が始まり、本に親しみを
持つことにつながっている。年齢が上がり中学生頃になると、本
を手に取り表紙や厚みを感じ、中身を見て選んでいる。また、ブ
ックトークから、自分の読んだことのない本への読書につながっ
ている。大人になっても読書を継続できるように、学校も取り組
むべきである。

委員：「多様な」の文言は、あえて表記する時代になったのか。内容でカ
バーしていけばよいのかは難しい。

図書館や園からも、良い本や子どもの読書の推進についての取組
みを発信しているが、見えていない取組みを発信することは難し
く、地道な活動が必要であると考えます。読み聞かせの大切さを保
護者に伝えることは、施設も頑張っていかなければならないため、
図書館からヒントをいただきたい。

また、多面的に読書活動を広げる方法も考えていただきたい。

委員：第4次計画の具体的な方策の「市立図書館における子どもの読書
活動の推進」の中の「読み聞かせやおはなし会等の開催」の文言
が、第5次計画で消えている。また、基本施策「地域ボランティア
の協力」の文言だけでは、ボランティアが「読み聞かせやおは
なし会等」を行っていることがわからないのではないかと。

事務局：第4次計画での市立図書館における子どもの読書活動の推進「読
み聞かせやおはなし会等の開催」は、具体的な方策「(2)-②市
立図書館における…」にあるが、読み聞かせやおはなし会は図書
館職員よりボランティアが行っている例が多いため、具体的な方
策「(2)-④社会全体における…」の基本施策「地域ボランティ
アの協力」の中に組み入れたが、基本施策の中に、「読み聞かせや
おはなし会等の開催」の文言の追加を考える。

委員：「なんと！バースデーブック事業」の絵本の選書は、どのように行
ったか。

事務局：1～3歳まで楽しめるもの、安定して供給できるもの、永く読み
継がれているものや最新のもの等を考慮し、選書している。

委員：「多様な」の文言について、特に外国籍の子どもたちは、小学校等

で習って話すことは得意だが読むとなると難しい子がおり、プラスのケアが必要である。あえて「多様な」を入れる必要があると考える。

委員：子どもは図書館に行くと子どもの読書や調べ学習ができるが、保護者は簡単にインターネットで調べる傾向にある。図書館はいろいろな本で調べることができ、そこにはたくさんの発見があることを保護者にも発信すべきである。子どもだけにターゲットを絞ると充実した計画になるが、保護者も含めた計画にすべきである。

委員長：「多様な」の文言をどう表現するべきか。また、「読み聞かせやおはなし会等の開催」について第4次から第5次の変更の意味合いが不透明だと思う。第5次計画では、乳幼児期から中学生期は現在取り組んでいるが、高校生に対して読書活動の推進についても取り組んでいただきたい。

「図書館デジタル化推進事業の推進」の中で、（資料のICシステム化）と（GIGA タブレット・読書記録）の違いを説明していただきたい。

事務局：市立図書館のICシステム化は、本にICタグが貼ってあり貸出しや返却がセルフ化されている。学校は、バーコード管理のためカウンターによる貸出しとなる違いがあるため、それぞれに表記させていただいた。

学校では、GIGAのタブレットを利用し、ホームページから本を予約すると「なんと！ぐるっと巡回本サービス」で学校に本が届くことになっている。学校で借りた本の記録は、「読書シール」を活用し読書の励みとなっている。

委員長：「図書館デジタル化推進事業の推進」により、「なんと！ぐるっと巡回本サービス」の活用を促しているのであれば、GIGAのタブレットを使って「図書館デジタル化推進事業の推進」の文言はなくてもいいのではないか。学校で指導ができているか。

委員：学校から市立図書館が近いため、巡回本サービスを活用するより、市立図書館に足を運んで、本を手にとって選んで借りる子どもたちが多くいる。

教育長：（２）-②エ「図書館デジタル化推進事業の推進」の文言を、「資料のICシステム化における児童生徒の図書館の活用」としたい。
（２）-③ウ「図書館デジタル化推進事業の推進」は削除する。各

学校で週1回、最低10分間GIGAのタブレットを使って本を予約して、図書館を利用する機会を作っている。また、授業を振り返り、必要があれば「なんと！ぐるっと巡回本サービス」で本を借りたり、実際に図書館へ行ったりしている。義務教育の9年間で、GIGAのタブレットを活用し、身近に図書館を利用することで、心豊かで便利になったという環境にしていきたいと考える。また、大人になってもスマホを活用し、身近に図書館を利用する大人になってほしいと考えている。

「社会全体における・・・」の基本施策の中に「読み聞かせやおはなし会の開催」を表記することにしたい。「多様な」については、確かに年齢で言えば全ての子が当てはまるが、年齢で割り切れない外国籍や個別に支援が必要な子どもの対応も考えていかなければならない。また、保護者も含めた計画の内容にしていきたい。

委員長：「GIGA スクール構想に基づく1人1台端末」という文言の方が、子どもたちにとって良い。子どもたちは学校で図書館の本を借りることを知っているが、この計画のことは知らない。保護者も一部の人しか知らない。特に、保護者に対してこういった読書活動の推進を行っていくかも考えなくてはいけない。

教育長：次回までに検討させていただきたい。

委員長：「多様な」という文言をどうするか。

事務局：いただいた意見をまとめて、再検討して次回までに示したい。

委員：「多様な」については外国籍の子どもたちだけでなく支援が必要な子どもここに含めることができる。「多様な」はいろいろな意味を包括できるのではないか。

委員：支援の必要な子ども「多様な」に入るとなると、そこに特筆しなくてもよいと言われることもある。はっきり外国籍とするよりも「多様な」とした方が良い。

事務局：「多様な」の文言について、支援の必要な子等いろいろな子を含んでいることもあり、良い言葉が見つければ検討したい。

教育長：入れないのではなく、何かを入れるという方向でお認めいただきたい。

委員：「なんとみらい文庫」は、利用しているのが一部の子どもたちだけで、利用していない子どもたちへの支援が必要である。小・中学校の「読書シール」の取り組みを、絵本を手取るきっかけづくりとして保育園等にも行っていただけないか。子どもの頃に読んだ絵本は大人になっても宝で、園では保護者に「おすすめ絵本リスト」の中から、絵本を購入していただいている。小さい頃から小さな積み重ねが大切である。

また、不読率が高い高校生の読書について、児童生徒向けの「人気本リスト」は作成しているか。書店では「本屋大賞」があり、読書の参考となっている。

また、書店等での読み聞かせの場面をみていると、保護者が読み聞かせに集中していないと、子どもたちも聞いていないと感ずることがある。今後は、保護者向けの読み聞かせの機会を設けることができないか、連携を図りながら考えていきたい。

教育長：「読書シール」は、小・中学校で試みが始まったばかりである。保育園等での試みは、本を読まない子どもたちの読む励みになるため、前向きに検討したい。また、保護者に読み聞かせの良さを知っていただくために、保育園等からいただいたアイデアをボランティアグループ共有し、具体化していきたい。

委員長：3月から始まった、ＩＣシステム化や学校の利用状況はどうなっているか。

事務局：全体的には、緩やかに増加傾向にあるが急激には伸びていないと感じている。学校は順調に進んでいる。

委員長：図書館に興味がない人をどのように惹きつけるかが、今後大切になってくるのではないか。

・閉会のあいさつ 橋爪副委員長

子どもの頃はあまり本を読んでいなかったが、高校生の頃に1冊の本と出合った。進路選択に迷っていたとき、図書館で五木寛之の「生きるヒント」と出会い、共感して気持ちが楽になった。本を通じて、他人の考えを知ることができ、毎日のように図書館へ行くようになった。困ったときにヒントを得て、読書がプラスになったり、マイナスがプラスに変わったりもする。子どもは絵本から始まり、いろんな本に触れて人生を豊かにしていくと思う。この策定計画で南砺の子どもたちが、より良い人生を歩んでいけるようになる1つの方策としてみなさまと協議して、素晴らしいものにしていきたい。

